



慶應義塾図書館 (三田メディアセンター)



HathiTrust (ハーティトラスト)

FRONTIER

教育・研究の最前線

図書館の《館》を超えて

三田メディアセンター 事務員

杉野珠梨亜すぎのじゅりあ

デジタルネイティブでありかつコロナ禍を経験した今日の塾生にとって、図書館とは一体どのような場所なのでしょう。図書館の資料を利用するにはひと昔前までは必ず図書館へ足を運ぶ必要がありました。インターネットの普及とともに1990年代後半より雑誌の電子化が急速に進み、

今や多くの論文に自宅からアクセスできるようになりました。一方、電子書籍が一般にも定着してきたのはここ近年のことです。インターネットを通じた図書利用の普及に先駆け、慶應義塾大学は2007年にGoogleブックス図書館プロジェクトへの参加を発表、Google社と共同で三田の蔵書(著作権保護期間が満了した約10万冊の和書)をデジタル化、2011年にはそれらを全て公開しました。

そして2022年、慶應義塾大学はHathiTrust(ハーティトラスト)という、米国の大学図書館が運営する世界最大級のデジタルライブラリーにアジアから初加盟しました。このたびの正式加盟によって大学の所属者は加盟館固有の機能拡張が使える

ようになり、資料がより活用しやすくなりました。また、貴重な和書のデータが半永久的に保存されることとなったこと、そしてそれをより効率的にインターネットを通じて世界に提供できるようになったことも、今後の日本研究の発展への寄与という点で大きな意味を持つものと期待されます。

インターネット上の日本語の学術資料は、海外と比較すると残念ながらまだまだ少ないと言わざるを得ない状況ですが、慶應義塾大学はGoogleブックスやハーティトラストの他にも、貴重書のデジタル化と公開、機関リポジトリの構築、学術出版社と連携した電子学術書利用実験プロジェクトの主導など、図書館の直接的な利用者を主としたデジタルサービスにも取り組んでいます。コロナ禍を経てデジタル資料の需要がますます高まっているなか、ローカル、グローバル、どちらの視点においてもよりサービスおよび情報発信を充実させていくと同時に、物理的な「場」としても塾生の研究・学習活動の拠り所であり続けたいと、キャンパスに戻ってきた塾生たちを見ながら思う次第です。

※「慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクション」<https://collections.lib.keio.ac.jp/>